

2021年12月21日(火)

令和3年度 全国科学館連携協議会 中四国ブロック会議 報告書

徳島県立あすたむらんど子ども科学館
科学館部 後藤 利貴

日時	2021年12月17日(金) 12:50~16:30
会場	オンライン開催(テレビ会議アプリ「Zoom」を使用)
参加者	連携協事務局 1名・加盟館 15名(10館)(合計 16名)
目的	全国科学館連携協議会規約に基づき、加盟館の相互交流を深め、地域の特性を生かした事業の情報および意見交換を行うことにより、中四国の科学普及向上に寄与することを目的とする。
内容	<p>○開会 12:50~ 幹事館挨拶 【徳島県立あすたむらんど子ども科学館 館長 南栄治】 (以下、敬称略)</p> <p>○議事 13:00~ 報告 各館情報交換(入館者数の状況、特別展開催状況など) 今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、休館を余儀なくされた館も多くあったが、10月以降は感染者数の全国的な減少により、団体利用が増えるなど、入館者数は回復傾向で、館によっては、コロナ禍前よりも増加している館もあった。</p> <p>【出雲科学館】 出雲科学館がワクチンの接種会場になるかもしれないとのことで、場所確保のため例年よりスペースを狭めての企画展開催を行った。科学の祭典は中止。県外講師を招いたサイエンスショーも中止し、県内講師または科学館スタッフのみでサイエンスショーを実施した。講演会も県外講師の招聘を取りやめ、科学館を会場として、講師はZoomにより講演を行った。現在、通常に戻すタイミングについて検討中。</p> <p>【愛媛県立総合科学博物館】 GWの企画展を中止。夏の企画展「化石の世界」はコロナの影響もあり来館者数が少なかった。秋は遠足シーズンであるが、団体キャンセルが相次いだ。修学旅行が冬にシフトし、現在多くの来館者がある。秋の企画展は前年度の5倍利用があった。早稲田システムによる「ポケット学芸員」を導入し、今後コンテンツを増やしていく予定。日本人初の女性科学者「安井コノ氏」の紙芝居を全国初で上映予定。</p> <p>【人と科学の未来館サイピア】 貝をテーマにした企画展「シェルシェ」を開催。拾ってきた貝をそのまま展示。毎週末に貝殻関連イベントを実施。臨時休館明けの企画であったが、だんだん来館者が増え、11月にはリピーターも増加。来館者からは、「県外に出られないときに、イベントを開催してもらいありがたかった」との声も。貝殻展のオリジナルキャラクターも作成、経費削減のため職員によるワークショップが難しく、ボランティアによる貝殻イベントを実施した。</p> <p>【川口ダム自然エネルギーミュージアム】 11月は過去最高の団体利用者数・出前授業数であった。年末に門松づくりを予定している。コロナ前はミュージアムで工作教室を実施していたが、道具の消毒などもあるため、近隣の施設を使用し、事前予約による工作教室としている。</p>

<p>内容</p>	<p>【川崎医科大学現代医学教育博物館】 コロナ発生時から臨時休館が続いている。ワクチン接種の会場として使用された。博物館の広い展示スペースを活用し、大学の授業で講義室の一つとして使用されている。また、近隣の小学校よりオンライン授業依頼があり、2回実施した。その他活動として、体験教室の映像コンテンツを制作し、動画で紹介した。</p> <p>【高知みらい科学館】 図書館など併設された複合施設で、平成30年に開館し来館者数300万人を達成。科学館にはそのうち5人に1人が来館している。図書館と科学館の連携として、関連図書の本借展示や図書館のどこに配架されているか紹介している。プラネタリウムは小規模プラネタリウムでは3年連続稼働率1位を記録した。</p> <p>【鳥取市こども科学館】 県のコロナ警報、特別措置法でイベント自粛の要請があり、夏の実験イベント、企画展示は休止。秋に1家族5名以内として、移動プラネタリウム上映を企画していたが、中止となった。感染者数は減ってはいるが、オミクロン株に向けた感染防止のため、人数を増やすのは難しい状況である。来館者数も例年の3分の1程度である。</p> <p>【鳥取市さじアストロパーク】 これまで関西圏の利用が多かったが、人数制限が厳しく、集客できていない。ふたご座流星群など、ネット中継も行っているが、イベントについては、通常300人参加されることもあったが、現在は事前予約で20～30人限定としている。</p> <p>【広島市こども文化科学館】 企画展は昨年度すべて中止となり、今年度も予定していたが、体験型であったためとりやめ、映像の展示を準備していた。しかし、休館となってしまったので、実施できなかった。最近ではポタニカルアート展など、館独自の工夫を取り入れている。科学の祭典を10月に予定していたが、リアル開催は中止し、12月から3月までオンライン上で実施している。また、消毒作業について、職員が対応していたが、学生アルバイトも動員して消毒している。</p> <p>【徳島県立あすたむらんど子ども科学館】 企画展は非接触型の企画を賃借して実施。GW企画展は臨時休館もあったため、展示期間を延長して開催。リアルとオンラインのハイブリット式で講演会を開催し、県外の方にも参加いただけた。</p> <p>協議① オンラインを用いた科学普及活動について オンラインコンテンツ作成のために使用している機材や動画編集ソフトについて、意見交換を行った。 予算カットが続く中、コロナ関連助成で機材を購入できた館や、予算取りができた館の報告があった。</p> <p>協議② 効果的なソーシャルメディアの選択について 実験動画をより効果的に配信するためのメディアの選択について、意見交換を行った。臨時休館を機会に動画制作を行った館が多いが、どの館も視聴回数を増やすのに苦労している。また、動画を撮影することはできるが、編集して公開するのが大変との声も多く、開館再開後は実施していない館も多かった。</p> <p>○動画視聴 各館のオンラインコンテンツを視聴し、意見交換を行った。</p> <p>○諸連絡・閉会</p>
-----------	---